

東京湾再生官民連携フォーラム 平成 30 年度 第 3 回企画運営委員会

1. 開催日時 平成 30 年 10 月 2 日 (火) 16 : 00 ~ 18 : 00
2. 開催場所 虎ノ門法経ホール
東京都港区西新橋 1 丁目 20 番 3 号 虎ノ門法曹ビル B1

3. 議事次第

《審議事項》

- (1) 東京湾再生官民連携フォーラム総会 開催案内
- (2) 法人化について

《報告事項》

- (1) 平成 30 年度 P T 長会議報告
- (2) 平成 30 年度 PT 活動報告
- (3) 平成 30 年度企業・行政等施設見学会報告
- (4) 東京湾再生官民連携フォーラム総会出欠確認及び
東京湾大感謝祭オープニングセレモニー出欠確認
- (5) その他

4. 出席者 (敬称略)

來生委員長、佐々木委員、井上委員、岡田委員、星委員、斉藤委員、牧野委員、工藤委員、田久保委員、木村委員、竹口委員、田中代理、芝原委員、三枝代理、天野委員、中崎委員、山本委員、富樫代理、佐藤代理、市原代理、田代理、鹿志村委員、岩田代理、佐久間代理、細川(事務局) 25 名出席

5. 議事メモ

5 - 1 開会

(1) 事務局確認事項

出席委員の確認、配布資料の確認

(2) 開会挨拶 (委員長)

東京湾大感謝祭前の最後の企画運営委員会となる。フォーラム総会についての審議事項もあるので、よろしく願います。

5 - 2 議事

《審議事項》

- (1) 東京湾再生官民連携フォーラム総会 開催案内

【決定事項】

提案のとおり承認された。

【審議説明】事務局

資料 1-1、1-2 を用いて説明

フォーラム開催の案内が資料 1-1 となる。欠席の場合の委任状を添付して開催のご案内を行う。総会の議事次第(資料 1-2)は第 2 回企画運営委員会で承認をいただいた。横浜第 2 合同庁舎 1 階 共用第一会議室で開催する。このような案内を会員に出したいということで審議お願いする。

【審議経過】

とくに質問なし

(議長)

前回、申し上げましたが、総会当日は出張が入っていますので、中村委員に私の代理をお願いしている。

《報告事項》

(1)平成 30 年度 P T 長会議報告

【報告】(事務局)

資料2を用いて説明

PT長会議は、PT の持っている課題や成果などを共有し、さらに活動のノウハウを交換することなどを主旨として開催した。事前にアンケート用紙を事務局から送り、回収した回答を整理し会議をおこなった。

複数の PT が連携して行う活動アイデアが提案された。具体的には、①まずは資料に記載してある4つの「第一歩の実施事項」をやってみようとなった。少しの手間でできそうなどころからはじめる。さらに、②資金繰り等を検討しながら、パンフレットの多言語への対応などの検討を含め、「引き続き検討する事項」での 5 項目にわたり検討を行っていく。

同時に③「PT 活動成果の発表会」を事務局が検討していく。また、「東京湾の日」や「東京湾の環境を良くする活動を行う人をみんなで褒める」などの支援活動の充実、さらに今までの活動記録の資料作成などについても行政・事務局で検討する。

さまざまな意見が出されたが、政策提案の成果を社会の仕組みの中に入れていくために、新たにフォローアップ作業が必要となるが、どう組み立てるのかの議論や PT 長のメーリングリストなどを事務局もサポートしつつ実施していく。

①従来の政策提案、の後、②政策提案のフォローアップや障壁の発見、③さらに提案の実現や社会実装のための工夫といった3つのフェーズ展開を区分して考えると、課題が整理できる。来生議長の会議の場を事務局でまとめたのが「政策提案を実り豊かにするために」である。それぞれのフェーズにおける官民連携の展開を整理してみた。

東京湾再生計画全体の検討の中でも、各フェーズでの官民連携の視点が大事になると思われる。事務局としては、資料最終頁に記載している 4 点について準備や検討を図っていきたい。

(議長)

わたしも出席したが活発な議論となった。官と民が連携して、具体的な提案実現のプロセスを実施していくことの大切さが再認識できた。

(2)平成 30 年度 P T 活動報告

①東京湾大感謝祭PT

【報告】(木村PT長)

資料3-1を用いて説明

パンフレットをご覧ください。田久保実行委員長の元、何とか開催にこぎつける予定。今年は会場が 5 つに分かれ、さらに別のプログラムとして関東地方整備局の京浜ドックの見学会が用意されている。

色々な関心を引くということで、このような組み立てになっているので、いろんな方に官民連携フォーラムの成果や各PTの成果、行政が実施されていることを伝えるチャンスととらえて感謝祭を活用して頂きたい。

②生きもの生息場づくりPT

【報告】(佐々木PT長)

資料3-2を用いて説明

資料は総会に向けて整理したパワーポイント形式となっている。全体的には前回の企画運営委員会で説明しているが、今回は、最初の 1 ページ目の下段にまとめた活動を紹介する。9 月 12 日に幹事会を行い、本日、PT会議をおこなう予定。政策提案「マコガレイ産卵場の底質改善」のフォローアップの検討や感謝祭への展示は、東京湾産貝類の水深帯別の展示や子供向けのクイズなどを行う予定。富津市で幹事会合宿をおこなうなど新たな政策提案に向けた議論を始めている。PT同士の連携について、具体的な活動に発展させられるか検討を始める。2 ページのPT活動イメージ図は修正を行い、河川部局を追加している。

③指標活用PT

【報告】(岡田PT長)

資料3-3を用いて説明

4ページ目の3. 具体的な活動内容の市民データの収集、データの整理・評価サポートが指標活用PTの活動です。総会においては、市民データの収集に関して触れる予定でいる。5ページのアンケートの実施については、まだ継続収集中で、総会までには整理でき、紹介できる。7、8ページの図面は現在改訂中でこれも総会で発表し、感謝祭でポスター展示する予定。

④江戸前ブランド育成PT

【報告】(牧野PT長)

資料3-4を用いて説明

活動内容は、「江戸前ブランド」としていろいろな媒体で継続的に情報発信していくというもの。資料には昨年度までの活動概況をまとめている。新しい活動体制になり3年目になる。新しい活動方針もまとめている。①江戸前水産物のイベントを各地で実施していく。②大感謝祭での取り組みには、水産オールジャパンの体制を組んでいる。メンバーの活動を紹介する。千葉県漁連、江戸前漁師を元気にする会な

どの資料に記載している活動を紹介するほか、大日本水産会は今年、感謝祭ステージイベントで食育活動を実施する。

PT会議では、個別メンバーの活動、東京湾大感謝祭の活動、更に江戸前の日常の活動について検討している。特に今回は、大感謝祭で東京湾の水産イメージのアンケートを実施する。さらに人材育成を今後議論・検討を行い政策提案に繋げていきたい。

⑤東京湾環境モニタリング推進 PT

【報告】(事務局代理)

資料3-5を用いて説明

PT会合は適宜メールベースでおこなってきた。東京湾環境一斉調査を 8 月 1 日実施。一斉調査に PT も参加して、10 団体が参加、調査後 12 月にワークショップを開催し、東京湾環境マップ作製の予定。関連情報として、湾岸都県における特別採捕許可の運用状況を紹介。さらに関連情報があれば、この場でご紹介をお願いする。

(工藤委員)

漁業調整規則は、漁業権に関係なくすべての海域に適用される。稚貝の生育を守るための規則で、小さいサイズの稚貝の採取を禁じるもの。アサリでは神奈川県は20ミリ未満、千葉県は27ミリ未満は採取禁止という規定になっている。

⑥東京湾の窓PT

【報告】芝原PT長

資料 3-6-1、3-6-2 を用いて説明

メンバーは東京湾に関係する施設の方々。これを活かして、東京湾のスタンプラリー、東京湾環境学習フォーラムなどを実施。今年度に入り政策提案に向けた検討を始めた。8月から9月に実施した東京湾のスタンプラリーは、参加者(スタンプシート配布数)8630人、そのうち延べ79人がスタンプ3個、ないしは6個、ないしは11個を集めた方となる。資料3-6-2はスタンプラリー参加者へのアンケートの結果をグラフにまとめた。30、40代の参加者が多く、住まいでは千葉の方が多かった。夏休み期間の8~9月と短期間でもあり、課題は多い。このスタンプラリーは、裾野を広げる意味で大きい成果だった。

⑦東京湾での海水浴復活の方策検討 PT

【報告】(田中代理)

資料3-7を用いて説明

今年の海水浴PTの活動状況をまず報告する。葛西海浜公園で42日間行った。猛暑もあり45,000人が参加した。お台場の海水浴については、9日間の予定が天候などの理由でから6日間の実施となったが、前回と比べ、日数が増えて海水浴らしくなった。6日間で約6,000人の参加があった。

昨年から政策提案を見直し、修正を重ね、前回の企画運営委員会で提案書が了承されたので今年度の総会に政策提案の審議がされる。感謝祭にはパネル展示の予定。

⑧東京湾パブリック・アクセス方策検討 PT

【報告】(竹口PT長)

既に、第一次政策提案(最寄駅から公道を通り臨海に行く、そのルート途中にポイントを置くことにより東京湾への関心を引く提案)を行っているが、それを前提に、①フォローアップについて、さらに②視点場からのアクセスを充実させる検討を行っている。海上からのアクセスは、海洋学習(船に子供たちを乗せる)という点で検討。企業用地については、企業の保安体制、安全確保などの都合もあり、すべてのところをお願いすることは無理があるので、協力のお願いの形式をとっていく。住宅地の活用については、公開空地利用の検討(住宅団地などの活用)では、あまり無理をしないほうが良いという意見を業界関係者の方から聞いている。

最終報告書を作成し現在、メンバー間で詰め作業を行っている。また、PT 長会議での案件も検討していく。

(議長)

⑨浅瀬再生実験 PT は、鈴木 PT 長欠席、資料なし。

《その他 ご意見等》

(田久保委員)

指標活用 PT の調査データ5頁の水難事故については、日本ライフセービング協会、小型船安全協会(安全のパトロール)、海上レジャー安全振興協会などに問い合わせしていただくと詳細データの提供など協力が得られる。

(議長)

東京湾の窓 PT のスタンプラリーに関しては、学校との連携も検討したらよい。

(岡田 PT 長)

感謝祭で各 PT のパネル印刷希望は12日までに申し出てください。

(3)平成 30 年度企業・行政等施設見学会報告

【報告】(事務局)

資料4を用いて説明

今年は、東京港の現状を海上から視察し、東京都港湾局のお二人の方からのレクチャーを伺うという企画をした。台風の影響により視察はできなかったが、レクチャーは行った。東京港の施設計画、環境改善については現場の映像を含めてレクチャーがあった。参加者からは、水質、汚泥改善など市民目線の質問もあり、担当部局を超えて答えにくい質問もあったが、丁寧に対応していただき東京港を理解することができた。

(4)東京湾再生官民連携フォーラム総会出欠確認及び東京湾大感謝祭オープニングセレモニー出欠確認

【報告】(事務局)

資料5を用いて説明

オープニングセレモニーに関しては、関東地方整備局にも支援いただいている。自治体や国のVIPの方々に関しての行動確認などをお願いする。

《審議事項》

(2) 法人化について

「法人化について」資料を用いて説明

(事務局)説明

法人化については、総会で会員のみなさまに説明する趣旨を、フォーラム事務局が準備した。

フォーラムの良い点を確保しながら法人化の検討をするのが目的となる。フォーラムの良い点を議論し整理してきた。官と民が同じテーブルで向きあい、信頼が生まれている。法人格を持たせるには、責任の明確化が必要となる。このため「法人格を待たない柔軟なフォーラムと、法人格を持つ事務局(管理組織)」といったハイブリッドな工夫も考えられる。事例収集などを行ってきた。さらに、政策を社会の仕組みとして作り上げるに際し、官民の協力が作りやすい組織が必要といった議論も始まったところとなっている。

このようなこれまでの法人化検討経緯を総会で説明したい。企画運営委員会で了解をいただきたい。

引き続き法人化を検討する際には、セブン-イレブン記念財団さんのご意見が貴重で改めて意見交換をお願いしたい。

【決定事項】

法人化の資料については、総会提出が了承された。この件は継続して検討していくこと。

【審議経過】

(竹口委員)

社会福祉事業の組織について、事例収集を行い参考にしたらよい。

(議長)

総会には、『検討を重ねる』ということで、この場で了承していただいたということにする。

(5) その他

(天野委員)

総会への準備の企画運営委員会であるので、PTからの総会報告事項の資料は理解することができた。それ以外に関して、総会で使用する具体的資料を示してほしい。

(事務局)

総会では、審議事項は資料を配布し、報告事項はパワーポイントの画像で説明する。審議事項に関する資料は、前回・承認された。総会までに、事前に総会提出の配布資料とパワーポイント資料とをメールで、企画運営委員に配信する。

5 - 3 閉会

委員長が閉会を宣言

以上